

## ウイングアーク

PHP研究所がメインフレームから出力される  
2,500種類の帳票を「SVF/RDE」を採用し刷新

PHP研究所では、IBMのメインフレームであるIBM System z上に構築された基幹システムを利用しており、1万本のバッチプログラム、3,000本のオンラインプログラムで構成された、2,500種類を超える帳票が出力されていた。このメインフレームに対応する業務プリンターのメーカーサポート終了に伴い、機種に依存することない出力環境の実現が求められていた。また、メインフレーム用プリンターや各プリンター用にオーバーレイの作り直しの労力を最小限に抑える必要性があり、導入実績が豊富なウイングアークの「SVF/RDE」の導入を決定した。

PHP研究所は、メインフレームから帳票イメージデータを作成するまでの仕組みは変更せず、オープン系プリンターやデジタル複合機など、機種に依存することなく自由に出力する仕組みを構築した。基幹業務システムのプログラム変更を最小限に抑えながら、メインフレーム直結の高価なプリンターや機種限定の業務プリンターを、オープン系の低価格なプリンターに移行することが可能となった。

また、以前は帳票データを作成した時点で紙に印刷し、現場に数千枚の帳票を配布し保管していたが、「RDE」の導入により13ヵ月分の帳票データを「RDE」に保管し、必要な時に現場担当者がデータを取りだし印刷できる仕組みを構築したことにより、印刷コストと保管コストを大幅に削減できた。

今後、PHP研究所では、現在利用している「RDE」の帳票保管製品版を導入し、検索、表示、印刷を容易にする仕組みに移行するほか、PDFの利用範囲を拡大し、電子帳票化を促進していく予定だ。

ウイングアーク TEL : 03-5962-7300

## EMCジャパン

鳥取県立中央病院が患者の  
プライバシー保護に「RSA SecurID」を採用

EMCジャパンは、鳥取県立中央病院が「モバイル・カルテ・ビューワ」のアクセス認証にワンタイムパスワードの「RSA SecurID」を導入したことを発表した。

「モバイル・カルテ・ビューワ」は、病院の外にいる医師が情報端末を使用して電子カルテを閲覧し、診療に役立てる院外カルテ閲覧システムだ。鳥取県立中央病院は救命救急センターとして鳥取県東部の全域をカバーしており、救急現場からの搬送患者、重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れている。救急医療拠点における医師の激務は、深刻な社会的課題のひとつとなっており、鳥取県立中央病院においても同様だ。そこで医師の負担をITの活用で軽減し、地域医療を支える医師の使命感をITで支える施策のひとつとして「モバイル・カルテ・ビューワ」が開発された。

医師は、iPadやiPhoneを使って「モバイル・カルテ・ビューワ」で電子カルテを閲覧する。「モバイル・カルテ・ビューワ」はシンクライアント技術を採用しており、端末にカルテの情報を保存しないが、ログインには患者の個人情報を万全に守るための十分なセキュリティ強度を持つ認証が必要だ。そこで強度の高いワンタイムパスワード認証であること、iPadやiPhoneと同様に可搬性が高く、誰にでも直観的に使えて豊富な実績のある認証製品として「RSA SecurID」が採用された。「RSA SecurID」は、本人だけが知っている暗証番号とトークンが表示する60秒間のみ有効なパスワードで不正アクセスを防止するワンタイムパスワードだ。ハードウェアトークン、ソフトウェアトークン、スマートフォン向けのラインアップがあり、利用するデバイスにあわせて選択できる。

EMCジャパン TEL : 03-6830-3091